だより

R6.4.16　Vol.2

１週間が経ちました…

年度初めは何かとバタバタして忙しいですね。あっという間に１週間が経ちました。まだ１週間なので、わずかな触れ合いの中での話ですが、子供たちの挨拶の声がとてもいいです。まだ私自身も真穴に来たばかりで、お互い、様子見モード。（笑）それでも朝や帰りの挨拶がきちんとできる真穴っ子たちに感心しています。

初日、一斉下校時に「さようなら！」と声を掛けていると、「校長先生！明日から仲良くしましょう！」と笑顔で声を掛けてくれた男の子がいました。思わず「お！おぅ…そうやね！よろしくね。」と返しました。（昼休みの鬼ごっこに誘ってくれました。）

新年度、子供たちは、気持ちも新たにわくわくしています。このわくわく感が続くよう、子供と一緒に私もわくわくし続けたいと思います。

校内徘徊…もとい！巡回(笑)

ホームページの画像撮影もかねて、校内を１日数回、巡回しています。１年生が算数ボックスの使い方、３年生が習字道具の使い方を教えてもらっていました。初めての学習に臨むにあたって子供たちも興味津々です。

数年来、ICT が学校生活の中にも取り入れられ、それを用いた学習が盛んに行われています。最早、使うのが当たり前の時代。これからの社会を生きていく子供たちにしっかり学ばせていきたいですね。

ただ、全てそれで片付くわけではないことを私たちは注意しておきたいものです。小学生段階、特に低学年のうちはしっかり、具体物や半具体物を見たり、触れたりすることで物の量感や質感を習得していきます。また筆で字を書くという日本古来の文化との触れ合いも貴重な体験です。いくらデジタル化が進もうが、私たち人間はアナログな存在であるという本質を忘れず、教育活動を進めていきたいと思っています。

四方山話真穴 ver.　其の二（桜に思う）

私はこの季節に生まれ、そしてこの季節に母を亡くしました。母が亡くなってから、桜は私にとって生と死の象徴になりました。先日、57 回目のさほど嬉しくない（笑）誕生日を迎えました。ちょうどその日は、次男坊が大学から帰省しており、そしてまた大学へ帰っていく日でもありました。「じゃあ、学校行ってくる！お前も気をつけて帰れよ。」と声をかけると、まだ寝ぼけ眼の息子が「うん！父さんも気をつけて！あ！父さん！誕生日おめでとう！」と声をかけてきました。『こいつの誕生日を祝うことはあっても俺の誕生日祝ってもらったことって、あったっけかな？』と何やらくすぐったい気持ちになりながら「おう、行ってくる！」と玄関のドアを開けると、目の前の川沿いの桜並木から雪のような桜吹雪が舞ってきました。

母を亡くしたのはちょうど 18 年前の今日でした。桜はすっかり葉桜になり夏に向けての準備を始めた頃。病院の裏口から母の亡骸と一緒に夜の帳が降り始めた外へ出た時、目の前を風が通り抜けました。一瞬顔を背け、また前を向いた時、まだ温かい母の亡骸の上に桜の花びらが一枚落ちてきました。上を見上げてもどこを見ても葉桜ばかり。どこからきた花びらなんだろうと不思議に思ったことをこの季節になるたびに思い出します。桜の開花と共に、一つ歳をとり、止まってしまった母の年齢に近づいていく自分。もう後、数回で母の年齢に追いつきます。

誕生日の日、職員たちがケーキのサプライズプレゼントをしてくれました。もう、さほど嬉しくもない誕生日ですが、職員の気持ちには感謝でいっぱいになりました。（温かすぎる。）

私にとって生と死を同時に感じるこの季節。万感の想いが込み上げる中、今年度もまた、期待と不安に胸を躍らせながら子供たちが登校してきます。縁あって出会った真穴の子供たち。色々な可能性に向かって進んでいくこの子供たちの助けとなり、楽しい日々を送らせてやりたい。桜を見上げながら気持ちを新たにする今日この頃です。